

ら は た

TAHARA
History Inquiry
Club

歴史探訪

クラブ 其の74

家康と渥美半島

〜旧渥美町に残る伝説〜

鬼松（兼原町）

本能寺の変（1582年）で、家康は大坂から山越えて海に逃れ、渥美半島の先端、西ノ浜に、わずかな家来とともに上陸した。襲いかかる地元の野武士を追い払い、小船で兼原の船着場に渡った。このとき、傍らにあった松の木に掛け、一休みした。後にこの松は「鬼松」と呼ばれるようになった。

権現森のとげなしばら（小中山町）
西ノ浜にわずかな家来とともに上陸した家康は、西山の松原の中を逃げ回るうちに、辺り一面に群生する「野いばら」に鎧のそでをとられ、身動きがとれなくなった。一心に神に祈ると、とげがパラパラと落ち、逃げる事ができた。いつからかこのばらを、権現森のとげなしばら」と言うようになった。



「とげのないバラ」 山田もと 原作 松浦邦治 画

鎧かけの松（山田町）

その後、以前朱印状を与えた泉福寺へたどりつき、松に鎧をかけた。（後に火災で焼失したそうである。）また、家康は軍資金を境内に隠したという。

「朝日さし 夕日輝く 木のもとに
黄金で十箱 失（銀）で十箱」という歌が伝わった。

田原市内の家康伝説は、田原城攻めと巻狩りが混同し、なおかつ、その後には作られた、史実とは異なる怪しい話も少なからずあるようです。

〜家康を祀る東照宮〜

さて、日本では歴史上の人物が神様として祀られることがあります。家康についても、成し遂げた偉業をたたえるため、また、その力、威厳にあやかするため、全国各地で東照宮が勧請（かんじょう）（神仏の分身・分霊をほかの地に移して祭ること）されました。田原にも東照宮が2か所あったことが確認されています。一つは現在の吉胡台から木綿台辺り、かつて山柄沢と呼ばれた地（現在は田原町神明社の境内地に移遷（いせん））、もう一つは3月号で紹介した野田町「運昌寺」の境内です。（現在は存在しません。）

東照宮の勧請は、家康に縁のある地、宗教的聖地としてふさわしい地などという規制があったため、簡単にはできなかったようです。全国に200か所、愛知県内では31か所所在不明も含む）が確認されています。

江戸時代の歴史書には、戸田忠能（田原藩2代藩主）が、日光東照宮に見立てて、元和2年（1616年）、



田原町神明社内の東照宮

家康の田原巻狩りの宿泊所であった山柄沢に東照宮を勧請したとあります。また、その横の岩は、家康が腰をかけて矢を射ったという事で「腰掛岩」、矢が飛んだ先は、吉胡貝塚のある「矢崎」という地名になったとのこと。ただし、後の話は、こじつけであると結んでいます。いずれにせよ、東照宮が2か所あったということから、田原がいかに家康にゆかりのある土地であるかがわかります。

実際のところ、各地にある家康伝説には、神様として祀らなくても、家康の言い伝えによりその力に少しでもあやかりたいという人々の思いがあったのかもしれない。（増山）
文化財課 23局3531